



NPO法人 みどりのゆび

会報 2023年 秋号



フットパスは、地に足のついた 社会を目指そうとする人間性復活の象徴

ご挨拶 事務局長・神谷 由紀子

“まちづくり”から“みらいづくり”へ

コロナ禍も一段落して、様々な活動が復活してきましたね。

そんな中、フットパス本の第二弾『フットパスによるみらいづくり（仮題）』（水曜社）が今秋出版されることになりました。前作が発刊されてから足掛け10年、“まちづくり”から“みらいづくり”へといよいよ大風呂敷になってきました(笑)が、“みらいづくり”って何なのか、ちょっとご紹介させていただきます。

フットパスは開始以来20年余、ゆっくりですが着実に拡大しています。2020年の調査では全国で120の団体、約570のコースがあり、どこの自治体でもフットパスが見られるようになりました。他のトレイルと広域連携している地域もあります。近場の緑を再確認する若い層が増え、移住への起動力ともなっています。フットパスは確実に浸透していると思われま。

コロナ時代は社会や政治も大きく変わりました。災害、疫病、戦争が次々に出現し、予測不能な社会になってしまったのです。世界経済も危うい状態となり、日本でも大企業の終身雇用に頼って人生を送れる時代ではなくなりました。「皆が起業家」として、自立、自給していく手法を考えなくてはなりません。

今、優しい社会が望まれています。予測不能な社会では、優しくなければお互いに共存できなくなるからです。フットパスはそんな優しい社会づくりに貢献できるのではないのでしょうか。

フットパスは楽しくて皆を惹きつける魔力があり、そして人に優しい活動です。フットパスは地域の魅力を発見し、地域を見直し、愛し、誇りを持つようになる活動です。皆がこのような考え方に立てば、どれほど日本は強く優しい社会になることでしょうか。フットパスを歩けば、地元の人々と交流し、地域の知恵を学び、自給できるヒントや、災害時の拠り所や助け合いの術を得ることができます。

またフットパス団体は全国で互いに訪問しあったり、facebookで密に交流しています。このような親和力のあるフットパス団体が、全国ネットワークとして情報や人的交流を強化していけば、有事にも助け合える強力なプラットフォームになります。現に熊本震災のときには、フットパスの中でボランティアや物資支援が行われました。

フットパスはもともとバブル崩壊した経済偏重の世の中を反省し、地に足のついた社会を目指そうとする人間性復活の象徴でした。平和と自由のために戦い抜いているウクライナの人たちをみると、人間らしく生きられる社会とは何なのかが身に染みてわかります。



フットパス専門家講座

多摩丘陵の12古街道フットパス②
京王堀ノ内から南大沢へ
大栗川に沿う大街道“古代甲州道”

[講師：古街道研究家 宮田 太郎]

東日本最大の複合遺跡群が眠る
尾根の道

1月18日(水) 天気：晴 参加者：18名

地域の古道・古街道を訪ねるフットパスシリーズの今回は、「古代甲州道」を2回に分けての開催でした（堀之内編～南大沢編、南大沢～多摩境編）。

このテーマは、だいぶ前から様々な講座でも紹介してきたものですが、大栗川に沿う南北方向の古街道＝「古代甲州道」は、自分の故郷・旧多摩村を通る道だけに、特別な想い入れもありました。ただこの道の名称は昔から地元には伝えられていたものではなく、個人的に研究上だいぶ前から分類のために呼称し始めたまま今も使っています。

ーそもそもなぜ大栗川流域に、「多摩ニュータウン遺跡群」が集中するのか、その謎やロマンを解くことが出来るのも、またこのルートの特性に注目することに始まるのではないかと考えています。大栗川に沿うエリアには3～6千年も前の縄文時代の遺跡がほぼ全体に広く分布しており、その集中度は日本一ともいわれるほどに濃密です。故に当時のニュータウンがあったとさえ言われる重要な地域にあたりますが、多摩ニュータウン遺跡の約千カ所を数える遺跡があることは、やはり古来の「往来の道」なくしてはありえないことで、しかもわずか一カ所の小さな峠を越えるだけで、いとも簡単に相模野と武蔵野が結ばれるポイントが多摩丘陵にあることが重要な意味を持っていると思います。

この峠こそが多摩境の「内裏峠（だいらとうげ）」であり、縄文時代以来、甲州や信州諏訪湖地方と多摩地方を「東西の道」としてつないだ「縄文黒曜石ロード」であり、古代～中世～近世を通じて相模野から武蔵野を通して東北地方へと続いた「関東における南北方向の交通ルート」としても大いに役立ったはずです。

また古墳群や中世武士の時代の遺跡や史跡、伝承地が今も沿線に沿って多数確認できることから、長く使われてきたことが想像できるのです。

今回のフットパスウォークでは、いつものように ①コースや見どころポイント、短い解説メモを書き込んだ現代地図 ②古道・古街道を黒丸点で入れ込んだ明治時代の地図 ③「遺跡や史跡情

報」 ④「自分なりの解釈」をA3資料10枚程度にまとめたものを、当日資料としました。

ちなみに本来「フットパス」は地図以外の資料を使わなくても構いませんし、また歴史の話を聞くというよりは、自由にあるがままの環境をゆったり散策することが基本です。ただ最近では自然環境や人の暮らし方に加えて、さらに詳しく地域の開発ストーリーや歴史全般についても知りたいと希望される方が増えてきています。後でもっと詳しく知りたくなった時のことも想定して、資料だけは毎回工夫し、要点を楽しくお話ししています。むしろ昔のことを想像することで、脳内にとっても健康上良い効果が得られることを実感してもらいたいーそんなふうにも考えています。それは、たぶん参加される皆さんや私の中の脳内に、「見えないものを見る・想像するはたらき」や「DNAの中の悠久記憶（祖先の時代から受け継いだ記憶）」を司る部分があって、それらが相乗的に響き合い、その結果、“言い知れぬ懐かしさ”のようなものを感じたり、大切なものに再び会えたような…そんな感覚（＝sense of wonderの一種）が現れ始めるのかも知れません。これらもまたいづれ脳科学で詳しく解明される時が来ることでしょう。

さて、今回（1月）開催の京王堀ノ内編は、まさに「京王堀之内」駅の名前が示すように、中世武士の館跡と、それを囲む家臣たちの屋敷跡や複数の堀があったかというロマンに包まれています。



京王堀之内のせせらぎ緑道

特に鎌倉時代の「吾妻鏡」寿永元年（1182）にも記された別所地区の「蓮生寺」は、源頼朝の父・義朝の護持僧・円浄坊が義朝亡き後に来住して築いた寺であり、源頼朝が田畑を寄進したこともはっきりと書かれています。



蓮生寺公園内の吊橋

今回のウォークでは、皆さんと寺の前の発掘調査について、鎌倉時代の鍛冶工房跡や船載の陶磁器類が数多く見つかったことも話ししました。私も、若い頃にこの辺りを聞き取り調査したり、何度も探索したりした当時は、未だ多くの里山が広がるエリアでしたが、大変ワクワクしたもので。近くの「多摩よこやまの道」には解説版も設置し、陶磁器の画像も掲載しました。

街道としては、小山田桜台の神明神社の高台を南北に通る「奥州古道」がこの寺の前を通過したことや、大栗川沿いの古代甲州道筋に出ることによって、源氏の父祖の代からの拠点だった百草山や、武蔵国府・府中にも続いています。



古代の官衙的な遺跡（戦国時代は大石信濃守屋敷跡）の中を通る鮎街道

また大栗川が中流域の由木地区で上流側に二つの川に分かれるその分岐点近くには、No.107番遺跡があり、室町時代の太石一族の大規模な屋敷跡や、その下に眠っていた古代の役所？の遺構群や大量の木工製品が出土しています。そこに「古代甲州道」の伝馬の駅家があったことで「馬継ぎ→マツギ（松木）」地名やその名前の武士団がいたのではないかと、以前からの私の考えもお話しさせていただきました。

近くには八王子の恩方にある「小野田城」の一族と思われる人物の館跡伝説があり、また有名な「滝山城」を築いた太石一族の伝説地や墓もあります。さらに後方の都立大の丘にあった「古代甲州道・尾根ルート」をたどりながら、今回の多摩境の内裏峠に直結する「谷戸越えルート」の魅力についてもお伝えしました。今回はまた皆さんとこの壮大なロマンの面白さを共有できたものと思います。



「あそこが野猿峠で、後方に見えるのは秩父の大岳山かな？」
(富士見公園・展望台にて)

(文と写真：宮田 太郎)

二つの宝篋印塔と古代甲州道

今回の多摩丘陵12古街道フットパス②は、「京王堀之内」駅に集合し、せせらぎの緑道を通って、別所・「蓮生寺」の方へ向かいました。蓮生寺は、源義朝が平清盛に倒された後、義朝の御持僧・円浄坊が草創、源頼朝がこれを厚く保護したといわれているそうです。境内には、宝篋印塔という4、5メートルほどもある宝篋印陀羅尼が納められた石塔があり、これを礼拝することで罪障が消滅し、苦を免れ、長寿を得るとされたそうです。境内の背後の「蓮生寺公園」は、自然豊かなフットパスになって、展望台や吊り橋もあり、気持ちよく歩くことができました。

午後のフットパスで印象に残ったのは、松木浅間神社に上がる中腹にある松木七郎宝篋印塔とその横にある祠内の仏像でした。祠の扉は閉まっていたが、一部破れているところがあり、そこから覗くと四段のひな壇にびっしりと古い仏像が並べられていました。宮田先生によると江戸時代後期のものではないかということです。

なお、「松木（まつぎ）」が「馬継ぎ」に由来するとすれば、多摩ニュータウンNo.107遺跡の役所跡や工房を含む駅家の存在と考え合わせ、大栗川沿岸に「古代甲州道」の存在が考えられるということです。また、大栗川に沿う道は、道志川の鼻曲がり鮎を献上の品として江戸へ運ぶ鮎街道でもあったそうです。

そのほか、「大石宗虎屋敷跡」などを経て、最後は「八幡神社」の市指定天然記念物のオオツクバネガシの古木を見て午後4時頃解散となりました。

先生は、予定のコースを歩きながら、古いお寺や神社、古街道などにつき、ギャグなどを交えながら、おもしろおかしく説明してくださるので、普段はなにげなく通り過ぎるようなところでも、とても印象に残り、楽しいフットパスとなりました。
(文：太田 建夫)



南大沢八幡宮にて、本日まで参加のみなさま（写真：田邊）

フットパス専門家講座

我がまちのフットパスを再認識する 成瀬尾根緑地と八幡平遺跡公園から

【講師：高見澤 邦郎・浅黄 美彦】

3つの尾根を歩いて、違った眺めを 楽しみました

2月18日（土）天気：晴 参加者：19名

相模平野に向かって多くの尾根と谷戸を伸ばす多摩丘陵。そのうちの鶴川や玉川学園あたりは我が“みどりのゆび”のホームグラウンドでもあります。今回は「地元／学園・成瀬エリア」の尾根道を歩きました。学園前駅南口改札に集合後、まず「瓊宝（ぬぼこ）山本宮」へ。遙か昔、抜剣（ぬぼこ）山神社は岡山の山里にあったが社殿も祭祀も失われてしまったという。「ぬぼこ」の漢字を変えて、1933年に、開発されたばかりの学園の地に遷宮されたそうです。社殿は拝殿の奥にあり、小さいながら朱塗りの立派なもの。



竹林の参道、ぬぼこ山神宮

お宮からさらに登ると赤瀬川原平さんの自邸兼アトリエの「ニラハウス」。路上観察学会と一緒に立ちあげた建築史家・藤森照信さんに設計を依頼し、多くの仲間も工事を手伝って完成。「ゆとりと温もりの空間創出」が評価され1997年に日本芸術大賞を受賞しました(赤瀬川さん、数年前に亡くなられ、屋根のニラポット、今はありません)。



ニラハウス 右端は薪を使った茶室

東に成瀬駅や町田駅方面への眺めが広がる学園の尾根を少し行き、玉ちゃんバス（地元も運行に協力しているコミュニティバス）に乗車して成瀬台バス停まで、「歩き」をちょっと節約しました。バスを降りて東へ10分、成瀬尾根（都県境にある）に取りつく。樹林の中の緩い上り下りを南に辿ること30分、草原の吹上緑地に到着（この一帯の保整備は地元の「守る会」の皆さんが）。富士や南アは霞んで見えなかったけれど、丹沢から奥多摩への素晴らしい眺望を堪能。



玉ちゃんバスは“ハイあっこです”一家がデザインされている。作者（みつはしちかこさん）が学園地域の住人だったので



尾根の成瀬緑道をのんびりと歩く、畑もところどころに



吹上緑地で記念撮影 町田市街と丹沢の山々を背に

10分ほど下って成瀬街道沿いの、赤瀬川さんもよく行ったという「上海公司」でランチ。美味しくて（特に豚の角煮とデザートは杏仁豆腐が）、しかも安いと皆さん大満足。ただ、ランチが長引いて、乗るはずだった1時間に1本の神奈中バスに間に合わず、恩田川沿いを歩くことに（この道はお花見の季節になると、川面に映える桜が素晴らしく、市外からも多くの方が訪れる）。



サクラの名所 恩田川緑地を歩く

バス停「熊野神社」を右に入って「稲荷山遺跡」、そして「牢場遺跡（覆屋の中に敷石住居跡が保存されている）」へ。さらに北の尾根に取りつき、急坂の住宅地を上がって「八幡平遺跡」へ。以上3つの遺跡（集落跡）は1924年から翌年にかけて発見された縄文後期のもので、国の史跡にも指定されています。八幡平遺跡は2年ほど前に公園化されていて、横浜方面への眺望がなかなかのもの。



八幡平遺跡からの眺望

「学園尾根」、「成瀬尾根」、「高ヶ坂尾根」と三方からの眺めを楽しみ、我がまちの魅力を再認識することができました。さて、これで今日のコースはほぼ終わり。「芹ヶ谷公園」を経て町田駅まで歩き、解散。約2万歩の長いコースとなりましたが、良い天気にも恵まれたたくさんの方々に参加していただき、感謝。

（文：高見澤 邦郎・浅黄 美彦 写真：田邊 博仁）

我がまちの小径の先に合った別天地

この地域で育って四十余年。その我がまちでフットパスがあるとお聞きし参加しました。

良く知る道を歩き、見覚えある小道に一步、踏み入ってみたらその先は未知の別天地でした。住宅地のはざまにそっと存在する成瀬尾根。緑豊かな小道から見える宅地開発の年輪の面白さ、山吹緑地からの丹沢山系まで一望のパノラマビュー。

まさに未知との遭遇でした。町田駅も近い八幡平の縄文遺跡から、今度は歩いてきた我がまちが見渡せる絶景。最後は子どもたちで賑わう「芹が谷公園」で解散。

古代から現代まで人が憩う我がまちの、未知の魅力に気づかされた1日でした。

（文：渡辺 信輔）



芹が谷公園・ひだまり荘のつるし雛飾り（写真：田邊）



本日のフットパスコース図（作成：高見澤）

他のまちのフットパスをみてみよう
お花見しながら神楽坂をてくてく歩く
〔講師：田邊 博仁〕

外濠の桜並木のお花見と、
神楽坂の街の成り立ちを知る

3月24日（金） 天気：曇 参加者：8名

飯田橋駅から「外濠公園」の満開の桜を楽しみ、神楽坂の街の成り立ちをご案内しました。

ホームの改良工事と建替えられた飯田橋駅西口駅舎（2020年）。3Fテラスからの「牛込濠」と満開の桜の眺めが素敵でした。牛込見附門跡で、神楽坂の江戸防御の役目をご案内し、桜並木の外濠公園を歩き始めます。



牛込濠



外濠公園
を歩く

外濠公園から「東京日仏学院」へ。今年、旧アンステイチュ・フランセ東京から元の名へ。神楽坂には、あちら、こちらに隠れた階段や坂があり、パリのモンマルトルに似ているので神楽坂が選ばれ、多くのフランス人が住んでいます。神楽坂が、「リトルパリ」とも言われる所以です。



東京日仏学院内

いよいよ「神楽坂若宮八幡神社」から「若宮公園」へ。ここで、神楽坂のはじまりと名の由来、江戸、明治、大正から昭和への街の変遷のお話を。そして、懐かしい銭湯「熱海湯」の入口へ。芸子さんも通った粋な歴史ある銭湯です。熱海湯横の細い階段は、「熱海湯階段」、「芸者小路」、「フランス坂」とも呼ばれ、神楽坂で一番有名な階段です。ここを登ると見番に出ます。田中角栄氏の建てた家で、ちょうど「神楽坂まつり」の稽古の三味線の音が聞こえ、角栄さんのいろいろなエピソードをお話しました。



芸子さんも通った粋な歴史ある銭湯「熱海湯」

せっかくの神楽坂ですので、花街の雰囲気のある割烹料理屋さんでランチをいただきました。午後は神楽坂の中心の「毘沙門天善國寺」のお参りから再開。

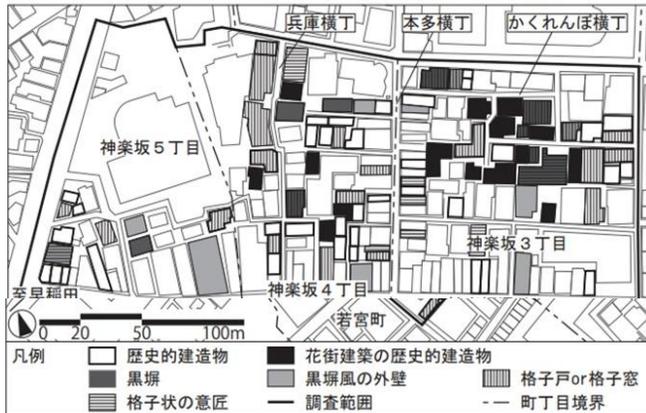
神楽坂唯一の高層ビル「アインスタワー（26F）」の真下にある「寺内公園」で、神楽坂の花街の歴史のお話を。また、漱石の若いころ、ここでの若い芸者さんとの甘酸っぱい思い出のお話もさせていただきました。

そして、いよいよ神楽坂の花街へ。有名な居酒屋「伊勢藤」は創業昭和12年。震災で焼け、昭和23年再建の古民家です。隣の「森戸記念館」内に「神楽坂おかみさん会」による神楽坂の歴史や文化の紹介コーナーがありますので、見学をさせていただきました。昔の芸者番付表が目につきましたね。



東京を代表する居酒屋「伊勢藤」

「伊勢藤」をはじめ、神楽坂の歴史的建築物（築50年以上）の分布の様子。「兵庫横丁」から「本多横丁」、「かくれんぼ横丁」の古民家を廻りました。



（資料：「神楽坂花街における町並み景観の変容と計画的課題」松井、窪田、日本建築学会計画系論文集2012年より）



物書き旅館として有名な「和可菜」のある「兵庫横丁」
 神楽坂の花街をご案内後、メインの神楽坂をぶらぶら下りました。残念なことに昨年11月に甘味所「紀の善」閉店、解体工事が行われていました。また、名画座の「ギンレイホール」も、11月に閉店してしまいました。飯田橋駅へ戻り解散いたしました。（文と写真：田邊 博仁）



ご参加のみなさまと

地図だけでは分からない神楽坂

心配した天気も解散まで降られずに済み、すごく楽しい一日になりました。飯田橋駅は五十年以上前に毎日電車で通過した所ですが、永い時を経て周辺の景色が想像とはまったく異なっていました。飯田橋駅舎、周辺の高層ビル、[外濠公園]など私共には初めての所という印象です。神楽坂は十年ほど前一度だけぶらぶらしたことがあるものの、記憶は曖昧でした。



飯田橋駅

駅前の外濠公園で満開の桜を観て、公園を抜け外堀通りを渡り神楽坂へ、坂を少し登るとすぐ日仏学院で、傾斜地を実にうまく使っていて、洒落た建物だと感じました。

二次元の地図では分からなかったものが、坂や谷や入り組んだ小路を歩くと三次元の景色になり、更に今回は説明を聞くことで、歴史的背景等の情報が加わって四次元の景色になりました。

おかげで今まで気付かなかったものが見え、他の場所との位置関係をも意識しながら見る事ができました。

牛込の名の由来、田中角栄と芸者の伝説、北原白秋など多くの文人が住んだ街、執筆活動が行われたとする旅館建物、夏目漱石も原稿用紙を求め、しばしば立ち寄ったという文具店、牛込氏の城跡だった「光照寺」などいろいろ知りました。

最も印象に残ったのは「芸者小路」といわれる熱海湯階段で、箱庭の中を歩いている感じがしました。また、私達二人だけではなかなか入れそうにない「割烹加賀」での昼食は、落ち着いた個室で、ゆっくりできて、とてもラッキーでした。



熱海湯階段



割烹料亭にてランチ

調査と資料の作成から実踏、そして実施まで、ガイドをしてくださった田邊さんは大変だっただろうと拝察します。誌上を借りて御礼申し上げます。

（文：伊藤 英俊・民江 写真：田邊 博仁）

フットパス専門家講座

多摩丘陵の12古街道フットパス③

南大沢から多摩境へ、縄文人がたどった交易の道・古代甲州道

[講師：古街道研究家 宮田 太郎]

八ヶ岳・諏訪地方と 繋がっていた祭祀場

3月29日(水) 天気：晴 参加者：14名

前回の「古代甲州道」の続きは、いよいよ、たった一つの小さな峠を越えることで、相模野と武蔵野を簡単に結ぶことが出来た「小山内裏峠」を目指しました。それは北向きに傾斜面（多摩ニュータウン側）において、大栗川の支流・大田川や大栗川に沿って多摩川や武蔵野まで真っ直ぐ下れるという特性があるからこそその交通路の拠点だからです。

今回の集合地である南大沢駅前を出てすぐに、遺跡調査の成果からわかった縄文集落群の分布図を、まず皆さんに見て頂きましたが、一様にびくつきされていたのが印象的でした。

南大沢駅前のバスターミナルや大型スーパー、商店ビル一帯は、わが国を代表するかつての縄文時代遺跡の濃密なるエリアでした。ところが、どこを探してもそのことを知る解説ボードや案内板が一つもないのはなぜなのでしょう。

一経済成長時代の開発時には、遺跡の存在をとにかく消し去る風潮があったことは事実です。しかし、今やそれだけの遺跡群があった場所は、かえって何千年も大きな災害にあっていなかった、いわば壊れていない安全地帯であることを証明していることが認識される時代になったはず。

それを知れば、ここに暮らす現代の人々の心にも安らぎをもたらす、また土地への愛着が育まれるはず。しかしながら、未だにその「負の遺産的思考方」のトラウマに支配されているのかと思うと、悲しい気持ちになるのは私だけでしょうか。

膨大な遺物や調査データを、なぜもっと現代に活かすことができないのか、今と未来だけにしか生きていない現代人が住むエリアになってしまっているのか…、ここには、開発時代の何かの圧力が残ることの意義は今や何もなく、むしろすでに幻と化しているのではないかと、いろいろ考えさせられます。

さて、駅の西方には「輪舞（りんぶ）歩道橋」という、いわば交差点の上に、四方の道のどこへでも簡単に降りられる円形の歩道橋があり、この上から目の前の丘の瀟洒な南大沢住宅地の建物群を眺め、また「古代東海道の推定位置はあのあた

りです！」と、一段低いところを走る線路から手前の尾根へ続く推定路を指さしました。

さらに西側に進むと「赤石公園」という場所があり、かつてこの一帯が山林地帯だった百年前までは、この「古代甲州道」の峠越え直前の位置に道標代わりの赤い石（多摩川のチャート石か？）が置かれていたとも言われています。

今では公園の片隅に、床面にタイル材で作られた付近の地図と、失われた赤い石の代わりに置かれた別の石が立てられています。公園を造った当時の設計士や地元の人たちが、たぶん何度も相談して決定したものだと想像するだけで、何だか温かな気持ちが伝わって来る場所となっているのです。

そして「関東山」と呼ばれ命名由来不詳の最高地点の森（ここが内裏峠の一角）があり、そこを越えると尾根緑道に出ますが、「戦車道路」とも言われたその由来を示した解説ボードがあり、そこで本当に戦時中に戦車はここを走行したのかについて、様々な研究者の見解を自分なりの言葉でお伝えしました。



尾根緑道は戦時中は戦車の試験走行をしたところ
古代には「武相国境線」だったそうです

さらに尾根緑道を進むと、トンネルとなった線路上あたりの山の中に奇跡的に残った「古代甲州道の推定遺構」があります。一々といってもこの辺りが整備されることになった際に、公園側の担当者と私がこの道路遺構の保存について相談しました。工事はすでに設計段階を終えていましたが、かろうじて、遊歩道として舗装はされつつも最後の峠を上る傾斜面の地形や道路跡が、そのままの位置に残されたのは幸いなことでした。



これぞ縄文人も奈良時代人も越えた峠に残る「古代甲州道」

その先、さらに皆さんと進んで、高台から相模野や丹沢など遠くを眺め、また、多摩境駅の駅舎の位置へ下って境川を渡り、相模原市域へと続いていた「片所古道（かたそこどう）」の位置も確認しました。他にも秩父の武将・畠山重忠の別荘があった伝説の丘、今はなくなった小山城跡のこと、古代の窯跡群や平安時代の木器製造場があった場所などの説明もしました。

遠くに連なって見える雄大な丹沢山系の山々の中でも、ひときわ端の方（西端）にあって、古代東海道を行く人々や大山参詣の人々の目印となった「相模大山」のこと、縄文人たちが冬至の日没を観測するための目安になったと考えられている丹沢最高峰の「蛭（ひる）ヶ岳」の本来の意味などにも触れました。

正に縄文人たちが、また古代の人々がこの峠越えのたびに、また日々の暮らしの中でとても大切にしてくださる大いなるパノラマ景観が、今もそこにあるのです。

フットパスの最後は、八王子から横浜に続いた「絹の道」の「浜見場跡」と最古の古道が眠る谷を上から眺めたり、道志溪谷の上質の鮎で将軍御用達になった「鼻曲がり鮎」を鮎担ぎ人が江戸城へ運んだ「鮎街道」の跡、古代の窯跡が眠る神秘的な「内裏公園」の森と池、そして縄文時代のストーンサークルといわれる復元遺跡「田端環状積石遺構」と続いて回りました。その遺跡のすぐ前の道路付近では、北海道の函館近くから出土した土偶に似た特徴を持つものが出土していることから、かつて縄文時代には北海道までも交流の道が存在した可能性もお話して、この日は終了しました。皆さんもこの峠道に溢れる歴史の豊かさにと感動してくださったのではないかと思います。



写真右手に未登録の塚？が見えますか？（鮎街道にて）



多摩境のストーンサークル(田端環状積石遺構)からは、冬至の日に丹沢の蛭ヶ岳に夕陽が沈む様子が観測できる
(文と写真；宮田 太郎)

小山田内裏峠は八ヶ岳・諏訪地方と多摩地方を結ぶ交易の道だった

多摩丘陵12古街道フットパスの第3回目、今回は京王相模線「南大沢」駅から「多摩境」駅周辺の「縄文人がたどった交易の道・古代甲州街道」の道を探索しました。

八ヶ岳・諏訪地方から多摩丘陵を越えるには小山内裏峠が一番容易で、八ヶ岳や諏訪地方から黒曜石、ヒスイ、さらに縄文土器（勝坂式）などが伝えられ、大栗川に沿って東日本最大級の多摩ニュータウン遺跡群が見つかっています。

小山内裏峠は「小山内裏公園」として整備されていますが、立ち入り禁止のサンクチュアリが大半を占めています。宮田先生によると「自然保護と同時に未発掘の場所の保護（遺跡、古道）のため」でもあります。

ここの戦車道（尾根緑道）は相模陸軍造兵廠で製造された戦車の走行テスト用として作られ、戦後しばらくの間、防衛庁が同様な目的でここを使用していました。

午後は田端環状遺跡を訪ねました。縄文中期から晩期（約5000～2800年前）のいわゆるストーンサークルです。冬至には丹沢の蛭ヶ岳山頂に陽が沈むなど宗教的な場であったと。また、この近くには、国内最大級の「南多摩窯業跡群」が見つかっていて、須恵器窯跡、粘土採掘跡や集落跡などの遺跡が発掘され、古代の手工業センター！？です。

次に、「浜見場」と呼ばれる高台から横浜方面を眺められ、元々の絹の道が通っていた道ですと、現在の絹の道は多摩ニュータウンの開発等で曲げられた道だそうです。

小山内裏公園の「大田切池」、調節池の造成によって立ち枯れとなった杉の林立、北海道の有名観光地「青い池」と似ていますね。

桜の満開の季節、天気も良く、気持のよい歴史フットパス、宮田先生の発見した古道など、いつもの詳細な資料と楽しいお話でした。

(文と写真：田邊 博仁)



尾根緑道の満開の桜とご参加のみなさま

フットパス専門家講座

スマレ博士と歩く春の高尾山と植物観察

[講師：日本植物友の会副会長 山田 隆彦]

スマレの聖地、高尾山の裏道を楽しむ

4月9日(日) 天気：晴 参加者：16名

高尾山、休日は特にすごい人出でケーブルに乗るのに長い列ができる。待っておれず、しかたなく1号路を歩いて登ることが度々ある。

「みどりのゆび」では高尾山は2回目となる。前回同様、混雑をさけて、高尾山口から大垂水までバスを利用し、城山から日蔭沢へ抜ける人の少ないコースを選んだ。

このルートはスマレの豊富なところでもある。例年、4月10日頃がスマレの見頃であるが、今年は2週間程花期が早く、既に咲き終わったものが多く残念であった。

高尾山のことを少し話したいと思う。高尾山は都心から50kmのところであり、海拔600mである。奈良時代に開創された「高尾山薬王院有喜寺」があり、森が守られて来た。また、暖帯林と温帯林の境目にあることで植物相が豊かである。

尾根を境に北斜面には、イヌブナを主とする落葉紅葉樹林が発達し、南斜面には暖帯系の常緑広葉樹林のカシ類、ヤブツバキなどが見られる。約1500種の植物が記録されている。高尾山で見つかった植物は約60種あり、スマレでは、タカオスマレ、アカコミヤマスマレ、シロバナヒナスミレがあげられる。



タカオスマレを観察する参加者

目についた主な植物について触れたいと思う。

ニリンソウ キンポウゲ科

名前は「二輪草」だが、花が2個一緒に咲いていることは少なく、片方が蕾の状態であることが多い。中には3個もつけているものもある。キンポウゲ科には毒草が多いが、このニリンソウの葉は、加熱すれば毒性はなくなるので山菜で楽しむ。ただ、猛毒のトリカブトの葉とよく似ていて、毎年、誤食で事故が起きている。注意が必要である。北海道～九州に広く分布し、林縁や林内、草地にふつうに生える。



ニリンソウ

ニオイタチツボスマレ スマレ科

城山手前の急な登りに数株あった。香りを持ったスマレで、群生していると側を通ったときに甘い匂いがして、その存在がわかる。タチツボスマレとよく似ているが、大株にならず、花数が少ない。花は濃い紫色をして中心部の白色が目立つ。もう一つの特徴は、花茎や葉柄などにビロード状の毛が生えていることである。また、茎の上についている葉は少し細長い楕円形をしているものが混じる。北海道(西南部)～九州の丘陵地で、明るくすこし乾き気味の林床や林縁に生える。



ニオイタチツボスマレ

アケボノスマレ スマレ科

ニオイタチツボスマレのあった急な登りに点々と見られた。地上茎のないスマレで、葉に先立ってピンク色の花を咲かせる。名前は、花の色を曙の空に連想してつけられた。北海道～九州の山地で林床や林縁に生え、少し乾き気味の林内に多い。



アケボノスマレ

タカオスマレ スミレ科

高尾山で見つかり名前がついたスマレ。ヒカゲスマレの葉の表面がこげ茶色から黒紫色になるもの。ヒカゲスマレの品種となっているが、花期を過ぎると葉の色は消え、緑色になり、ヒカゲスマレと区別はできない。タカオスマレを認めない研究者もいる。せっかく高尾山の名前のついたスマレなので、私はタカオスマレの名前を使っている。



タカオスマレ

フタバアオイ ウマノスズクサ科

「京都加茂神社」の葵祭に関連する植物で名前はよく知られている。この葵祭ではフタバアオイの葉を冠や牛車などに飾る。徳川家の「三つ葉葵」は、この葉の図案化からのものである。花は3-5月に、2枚の葉の柄の基部に1個下向きに開く。花弁はなく、3枚ある萼片の上半部は外側に反り返っている。本州～九州の山地に広く分布する。



フタバアオイの花と葉

高尾山は交通の便もよく、植物の豊富なところ、訪れる人は多いが、比較的安全なので、植物観察にはお勧めのところである。季節を変え種々の花を楽しんでください。(文と写真：山田 隆彦)



小仏城山にてご参加のみなさま (写真：田邊)

わくわく、ドキドキのスマレ観察会

この度はスマレ観察会に参加させていただき、ありがとうございました。一日であんなにたくさんの種類のスマレに出合えるとは驚きでした。スマレ愛にあふれる山田先生をはじめ、参加者の方方にも、いろいろな植物をたくさん教えていただき、とても楽しく、充実した一日でした。今もニンマリしながら写真を眺め、余韻に浸っております。

◆最初にメモしたのはミヤマキケマン。ムラサキケマンの親戚みたいな花。

◆ツルには見えないツルカノコソウは、ほんのりピンクや白の小さな花が集まって、かわいい姿でした。

◆エイザンスミレは、最初の特徴的な葉だけ見せてくれて、進んでいくうちに花も見られるようになって、テンションの上げ方が絶妙。花を見たときは嬉しさ倍増でした。

◆這いつくばってクンクンしてみたニオイタチツボスマレ。匂いはわからなかったのですが、またいつかかいてみたいな。

◆小さくても大きくても、ちゃんと破れていたヤブレガサ。

◆衝撃の雄雌連携プレーで命をつなぐミミガテンナンショウ。葉も斑入りのようなのがあったりして、いちいち立ち止まりたくなる植物でした。

◆並んで咲いていたマルバスマレ。白い花びらも丸くてかわいかったです。

◆ナツトウダイは面白い形の花が印象的。最初「ナツトウダイ(納豆台?)」だと思い込んでおり、途中で「ナツトウダイ(夏灯台)」だとわかって笑っちゃいました。

◆青空をバックに、ワインレッドの花と黄緑色の新葉が映えていたミツバアケビ。

◆予想外にちっちゃくて、花びらがクルンと丸まったニョイスミレ。

◆最後の方でやっと会えて感動したタカオスマレ。葉が茶色がかっているのはカッコイイですが、これもUVケアなのでしょうかね?

◆ヨゴレネコノメ、名前を気の毒がられて、きつとみんなに覚えられていますよね。

これまでスマレの種類はタチツボスマレしか知らず、違うのもいろいろ覚えてみたいと思っていたところでした。この観察会でいっきに頭の中が飽和状態になりましたが、少しずつ復習して整理・確認中です。でもそんなことしてる間にスマレの花の季節は終わってしまいますね。早くも、また来年の春が楽しみです。

(文：玉置 真理子 写真：山田 隆彦)



ミヤマキケマン



ナツトウダイ

他のまちのフットパスをみてみよう
春の海風を感じながらの「鵜原理想郷」
[講師：小林 道正]

リアス式海岸が続く千葉勝浦の景勝地
大正ロマン散策

4月22日(土) 天気：曇 参加者：6名

このコースの楽しみは、リアス式海岸の景色を満喫できる「鵜原理想郷」の散策と、市場食堂の海鮮丼を味わうことでしょう。

<鵜原理想郷とは>

「鵜原理想郷」は、大正時代に別荘地として開発する時に名付けられた海岸台地のことです。分譲に先立って、見晴らしの良い現地で、政治家や実業家の他に、新橋や赤坂から芸者衆を数十人も集めて500人規模の大園遊会を開催したそうです。その当時、外房線は「勝浦駅」までだったのを鴨川方面へ延長し、「鵜原駅」を造らせたことでも、その本気度が伝わってきます。しかし、関東大震災と世界大恐慌のために一大リゾート計画は実現しませんでした。



鵜原理想郷の「大木台」にある「幸せの鐘」の前にて

「鵜原海岸」が海水浴場として賑わっていたのは、日本の国が高度経済成長期のころですが、今ではその面影もありません。一番の良さは水質が良いことと遠浅の砂浜です。ここで3kmの遠泳を行い、身心を鍛える集団宿泊生活を実施している学校があります。私が勤務していた「東京学芸大学附属小金井小学校」です。現在は1000mに短縮されていますが、男子は赤い褌、女子は水着に腰紐をつけて継続中です。



鵜原理想郷から海中公園を望む

<地層の観察>

鵜原理想郷の崖には、規則的な縞模様の地層が見られます。火山灰質の砂や溶岩の小石が薄い板状に何枚も重なっています。この地層の中から化石を発見することができます。一つは有孔虫です。数ミリメートルの小さな化石ですが、虫めがねで拡大すると巻き貝のような構造が観察できます。もう一つは生痕化石といって、ウニやゴカイなどの生き物が動き回ったり、穴を掘ったりして棲息していた痕跡です。



地層の観察はじっくり時間をかけること

<その他の見どころ>

鵜原理想郷に隣接して、「勝浦海中公園」と「千葉県立中央博物館分室」／「海の博物館」があります。海中展望塔からはメジナやインダイなどの天然の魚を見ることができ、博物館では磯の生き物観察や海のクラフトなどを体験できます。

<勝浦朝市>

300年の歴史がある朝市は早朝から11時頃まで開いています。東京駅9時発の特急「わかしお」に乗ると、「勝浦駅」には10時半に到着するので、できれば新宿発7時頃発の「新宿わかしお」の利用をおすすめします。今回は野菜や干物を売っているお店が何軒か開いていました。



300年の歴史の「かつうら朝市」

干物屋店先に小さな法螺貝が入った籠が置いてありました。「あげるから持って行ってイイよ」と声をかけられ、「漁の網に入ってくるんだよ。」

ボウシュウボラって言って、食べてみれば身が大きくて美味しいよ」。1個108円の値札が付いていましたが、貰える物は遠慮なく貰うことにしました。ちょっと気が引けたので鰯の干物を3枚買うことにしました。お店の人との会話を楽しんでいると、買わなくてもイイものを、ついつい買ってしまう。

<勝浦港・市場食堂「勝喰（かっくら）」>

お昼ご飯は勝浦港の市場食堂「勝喰」です。今日のお目当てです。1~2時間待ちが当たり前のお店なので1ヶ月前から予約しておきました。今日のお勧めは「初カツオの刺身定食1,200円」と「勝喰丼1,000円」です。海鮮丼はご飯の上にお刺身が乗っているのが普通ですが、こちらのお店では冷たいお刺身は冷たい状態で食べて貰いたい主義でお皿に盛りつけて出て来ます。カツオの刺身とマグロの「なめろう」が大きなお皿にてんこ盛りでした。写真を見て頂ければ、その圧倒的な豪華さが分かって貰えると思います。



大きな窓から勝浦港を眺めながら昼食

海の幸にはお酒が付きものですから、地酒の「東灘（あずまなだ）」も注文しました。「西の灘」に対して、「東の灘」として勝浦の海の幸にぴったり合うと説明がありました。端麗ですっきりした飲み心地で美味しかったです。

勝浦港はカツオの水揚げ量日本一です。港には最新型らしい三重県の漁船が3艘停泊していました。清掃作業をしていた船員さんは東南アジア出身でした。「日本に来て10年くらいになる。お金になるから楽しい。船は15人乗りで近くの海で漁をしている。捕った魚はその日のうちに水揚げする」と、日本語でスラスラと応えてくれました。



勝浦港に停泊していた漁船

鵜原理想郷の夢の跡は今も

千葉、房総半島は外房、太平洋に突き出た明神岬一帯は2km余のリアス式海岸に縁取られ、「鵜原理想郷」と呼ばれています。

海原を見晴るかす「大木台」にはモニュメント「幸せの鐘」が海を背に鈍色に光り、「鵜原島」を望む「毛戸岬」、断崖絶壁の「日鳳岬」、広い眺望が楽しめる「黄昏の丘」と続いて、「鵜原海岸」は、「日本の渚百選」にも選ばれた景勝地です。

この人間臭い「理想郷」という名には、関東大震災で挫折した壮大な別荘地分譲というリゾート建設の夢が関係していたことを聞くにつけ、それにしてもなぜ、これまでほぼ当時のままの自然景観が残されているのか？ 興味が湧きます。

三島由起夫が短編「岬にての物語」で描いた「類ない岬の風光、優雅な海岸線……」と形容したこの地を訪れ愛した画家や文人達は、世に紹介する労をとらず、知人にさえ漏らすまいとつとめていた人さえあったとされていますが、案外そんなことも功を奏したのではと、勝手に想像しますが、

さて、大木台から東に目を転じると、長く伸びた「八幡崎」を背に海中展望塔が浮かんで見えます。このエリア・「勝浦海中公園」には水平線を眺めながら歩く海上道路が架かり、さらにこの夏には敷地内に大規模なレストラン&天然温泉スパがオープン予定とか。少子化や若者の流出に直面している地元勝浦市の人口流入増加を目指す、これも現代のリゾート建設ではあります。

木の間隠れに海を見ながら山道を下りると、ふと爽やかな甘い香りが。白い小花をたくさんつけたトベラの木があちこちで香っていて、砂浜近くの足元には白いハマダイコンの群生、ハマエンドウの紫色も目を引きます。初夏にはヤマユリも咲き香るといふ帯の緑と前方の荒々しい断崖の対比に、光る海が印象的でした。

(文と写真：横山 禎子)



マルバウツギの花も



ハマエンドウ

フットパス専門家講座

佃島、月島そして晴海へ/江戸のまち、
明治・大正・昭和初期の
まちの変遷をめぐる

[講師：浅黄美彦]

江戸のまち佃島、明治・大正の埋立て地のまち月島、そして昭和の埋立て地晴海。それぞれのまちの変遷をたどり、路地・親水堤防・運河沿いを歩きます。

5月20日（土）天気：晴 参加者：15名

地下鉄「月島」駅7番出口を出て、西仲通りの東端にある「月島もんじゃ会館」前の広場に集合。まずは、かつての佃川のあった高架下を渡り佃島へ。

佃島は隅田川河口にあった鉄砲洲の干潟に、百問四方の土地を拝領して造った江戸の漁師町です。その歴史的なエリアに入る前に、あえて旧市街の外周にある「ライオンズマンション月島タワー」から見ることにしました。この開発では、周辺の路地に合わせて路地状空地进行を巧みに設けているのが特徴です。新たに造られた路地を抜け、「佃天台地蔵尊」の路地に入ると、その狭さに驚きます。ここが典型的な佃島の路地でもあります。



開発によって生まれた路地



佃天台地蔵尊の路地

佃天台地蔵尊の狭い路地を抜けると「波除稲荷神社」、その先には船溜まりがあります。佃天台地蔵尊から旧佃の渡しあたりまでが江戸のまち佃島です。「佃公園」の西端から「佃小橋」、「大川端リバーシティ」を望むビューポイントで早速記念撮影。



佃公園の西端から 記念撮影

古い佃島のゲートのような佃小橋へ。赤い欄干を入れて、船溜まり、「釣舟屋沖本」、「住吉神社」とタワーマンションの眺めも佃島を代表する都市風景となっています。



佃小橋からの都市風景

佃小橋を渡り、佃の渡し方向に少し歩き横道に入ると、佃島の漁師住宅「飯田家住宅」と「佃政」がある。飯田家住宅は大正9年築（関東大震災前）で、漁師の専用住宅町家の構えをよく残す住宅で、400年前の地割と風景を伝える貴重な場所でもあります。

飯田家住宅横の狭い路地を抜け隅田川の堤防沿いに出ると、佃煮の香りが漂う。「天安」に立ち寄る。



飯田家住宅



佃煮屋 天安

佃島の締めくくりは「住吉神社」。社殿は1870年に再建されたもの。奥の明治末に建築された煉瓦倉庫も見どころのひとつです。今回は二の鳥居の陶製の額をじっくりと眺めました。額の文字は有栖川宮のもの。麻布のフットパスで訪ねた「有栖川宮記念公園」と繋がります。



住吉神社二の鳥居

「住吉小橋」を渡り旧石川島へ。江戸の人足寄せ場から明治の監獄を経て石川島播磨造船所となる。工場の閉鎖後1979年に三井不動産と旧日本住宅公団が取得し、都心への人口回帰、ウォーターフロント開発、タワーマンションの先駆となる大川端リバーシティ21開発が1986年に着工する。1990年代の初めには古き佃島から石川島のポストモダンの超高層が出現し、新たな都市風景が生まれました。

隅田川テラスを歩き「相生橋」を横に見て清澄通り沿いの肉の「高砂」へ。まち歩きの楽しみ、コロッケの食べ歩きで小腹を満たす。清澄通りを渡ると新佃島。1896年に埋立てられた新佃島は、当初は別荘地で文学者が集まった割烹旅館「海水館」があった場所として知られています。平らな佃島、月島のなかで唯一小高くなっているのが新佃島の特徴です。



海水館跡

そろそろ昼時となり、月島の路地をいくつか見ながらもんじゃ焼きの店へ。月島はタワーマンションともんじゃの店ばかりと憂いつつも、たっぷりと歩いたあとのビールともんじゃ焼きはやはり旨い。



もんじゃ焼き店の前で記念撮影

昼食後は、月島の西仲通りを勝どき方面に歩き、看板建築や長屋と路地を飲み込んだタワーマンションの足元を進み「西仲橋」にたどり着く。土木デザイン賞を受賞したこの橋から、サクラの咲く頃は、月島川の春の花筏が美しいらしい。

最後は朝潮運河に架かる「黎明橋」を渡り「晴海トリトンスクエア」へ。晴海高層アパートのあった旧日本住宅公団の団地跡地開発地です。運河沿いのトリトンスクエアのガーデンで解散しました。(文：浅黄美彦 写真：浅黄・田邊)

運河や橋、町の歴史を歩いて もんじゃまで

「みどのゆび」への入会から、待ちに待って3年目によく参加することが叶いました。

参加申し込みの際には事務局の神谷様からも、お久しぶりです！とお声掛けいただきとても嬉しく思いました。それなのに、当日まさかの集合時間を間違え30分遅刻。ガイドの浅黄様が事前配信くださっていた歩くコースのご案内メールを頼りに、小雨上がりの中、追いかけてきました。残念ながら、「飯田家旧住宅」はスキップしましたが、佃煮屋さんで無事奇跡？の合流。墨田川沿いの緑地公園を歩いたり、佃島の氏神様、大阪から徳川家康公の御恩により移住された佃島の縁起など、何かの読み物で、私がちょっと見ていたものを深く知ることができました。

また私は3歳頃からでしょうか、初めて自宅を持った父の庭で花木を育てるための手元用スコップを手に持った記憶があり、それ以来、植物が大好きです。今日はタイサンボクを始めろいろなお花を見、また名前や出自まで教えていただき、とても有意義な一日となりました。

途中、伊東豊雄氏の「風の卵」を通り見ながら、コロッケを頬張ったり、趣味の合うお仲間とお話ししながらのそぞろ歩きの楽しいこと。みなさんお優しく。いつか会の拠点である小野路の活動にも参加したいです。まずは竹林の管理、来春こそはタケノコ！！の御相伴にあずかりたいものです(笑)。

話がそれました。佃島の「もんじゃストリート」はコロナ禍明けで満員御礼といった感じ。運良く皆さんで入れることができ、ツナとコーンが口の中でプチプチ弾けるもんじゃを楽しみ、町おこしで始まったもんじゃストリートが、もんじゃといえば佃島を短い年月で不動のものとしたことなどに感嘆いたしました。お店を出たら目の大きなタワーマンションにびっくり。そんなこの界隈のパワーが人を魅了する魅力なのかしら。

その後晴海に向かう道中、運河と川、町のつながりを知り、中銀マンションの中庭の小さな滝(人工)で涼み、「晴海トリトンスクエア」のガーデンを散策して帰路につきました。多くの花と歴史を垣間見られて、お江戸散歩楽しかったです。

わたしは新潟県の真ん中あたりが出身で、自然を生かした公園以外はない？ 特に歴史的な事というと「耳取遺跡」という縄文のほんとうに小さな歴史しかないのかな、そんな街で育ちました。

フットパスを作るにはいろいろ工夫が必要ですが、いつか自分で一つでも良いからコースを作りたいと思っています。この会を通じて学ばせていただきたいと思っています。今後ともどうか、どうぞよろしくお願い申し上げます。(文：鈴木いと子 写真：田邊)



フットパス専門家講座
八王子の湯殿川流域フットパス
〔講師：古街道研究家 宮田 太郎〕

中世武士団・横山党と鎌倉一族の
伝説地・古道を探索する

5月30日(火) 天気：晴 参加者：12名

今回は八王子市域でも高尾に近い「狭間（はざま）町」や「館（たて）町」の境を西から東に流れて南浅川に注ぐ「湯殿川（ゆどのがわ）」流域の歴史ロマンをテーマにしました。

我がNPOみどりのゆびとはフットパス仲間として馴染みがある山形県の長井市ですが、近くに月山・羽黒山・湯殿山の出羽三山信仰の聖地があることは皆さんも知っている、あるいは聞いたことがあるのではないかと思います。その長井市も、八王子の横山党という鎌倉時代初期の武士団の跡地を継いだ長井氏関わっていることは、あまり知られていないのかもしれませんが。

今回はこの湯殿川に沿う丘陵を東の片倉城址（ここも長井氏の居城）方向に進み、途中の和田というバス停（片倉駅行き）まで、山林や畑が残る丘陵伝いに丘を含む約7kmをコースとして歩きました。



八王子、湯殿川の上流「上館親水公園」にて

当日はJR「高尾」駅前に10時に集合し、駅北側の甘里砦跡（とどりとりであと：現在の森林総合研究所一帯）を眼前に見ながら、駅南側の古刹「大光寺（高尾山薬王院の本坊建物を移した本堂がある）」から初沢城址の下の高乗寺入口に進みました。この「高乗」という寺の名前も、横山党の滅亡後に大江広元という鎌倉幕府の重臣の一族である長井氏が遺領に入り、室町時代初期の子孫が片倉城主となったそうで、その人・長井（永井）高乗が創建したことからこの寺名がついたようです。

その先には、前・天皇陛下ご夫妻も来られた「みころも霊堂」と、隣接する「高尾天神社」に日本一の大きさの菅原道真像があります。この道真像は、急な階段を上らなくては近づけないので、ほとんどの方が階段下から仰ぎ見ましたが、作者は意外にも、江戸日本橋の銅製の麒麟像や獅子像、

多摩市の聖蹟記念館の明治天皇騎馬像を製作した渡辺長男（おさお）氏で、大正天皇の御陵が決定した際に建物が計画されたものの関東大震災で一旦頓挫し、放置された時期を経て昭和11年頃に私費や寄付金を費やして完成したものだそうです。

その先は、狭間の台地上にある大型スーパーでの昼食に向かいましたが、途中で車の往来の多い町田街道を越えました。この街道は、ずっと先の町田の商店街に続きますが、その原型である旧町田街道は、実は鎌倉時代の「鎌倉街道山ノ道」であり、秩父地方と原町田を結ぶ中世の大道道でした。その旧道は今は静かな住宅街の道になっています。尾根上にあるその旧道に出た時、ご参加の皆さんに向かって、「みなさん、ここは高尾駅にも近い場所ですが、この道が町田の駅前の小田急デパート脇の第一踏切に続いていますので、どうでしょう、今日はこの道の探索に変更して町田駅前まで行きましょうか〜！」と話す、一斉に「え〜！」とか「遠すぎ〜」とか笑いながらもはるか先の町田を見ている目が変わっていたのが印象的でした。

川沿いには、横山党が平安時代末期に源氏の東北遠征に加わった際に奥州から持ち帰ったと伝わる、神秘的で美しい大日如来像が古いお寺の堂内にあります。また、鎌倉一族の権五郎景正を祀る御霊神社があり、戦国時代の小田原北条氏照の家臣で八王子城で討ち死にした近藤出羽守の館城（浄泉寺城）もあります。



親水公園から湯殿川の御霊神社に向かいます



鎌倉権五郎を祀る御霊神社、アオバズクが生息していてビックリ

そもそも湯殿川の名前をここに移した？その本当の歴史はどのようなものだったのか…という謎解きのような思いが私の中にずっとあり、皆さんと歩きながら、そんな話もしながら、楽しく景色の良い丘の上の森や畑の道を探索しました。

その湯殿川由来の謎を解くヒントは、およそ四つー①源氏に従って出羽国まで遠征した鎌倉権五郎が出羽三山に立ち寄り戦勝を祈願。その親戚にあたる有名な梶原景時（母は横山党で元八王子に故郷がある）が、後に当地の川に名前を移した。②横山党が奥州での戦乱に出陣した際に、出羽三山の神域から大日如来を持ち帰った伝説があるが、それこそが真実である。③鎌倉～室町時代に活躍した大江氏族の長井氏が、出羽国の置賜郡に領地を持ったので、当地方の一族にも伝わった。④戦国時代の近藤出羽守が出羽国との縁を持ったことで、この名前が当地方の川にも付いた一などが考えられるのでは…とお話ししました。

もちろんこれらの内のいずれが正しいのかは不明ですが、古い中世武士の時代の話なので、参加の皆さんにはちょっと難しい話になったかとも思っています。

また一帯が古代の馬牧があった？＝平安時代の延喜9年（909年）の朝廷の直轄牧の記録に見える「立野牧」と「館（たて）町」の地名の関係性のロマンもあり、今にも馬が飛び出してきそうな丘の上の小径を歩けたことは、貴重な体験だったかとも思います。



古代の馬牧（立野牧？）があったかもしれない丘はとてものどかな場所

また高台の南側で建設中の圏央道バイパスを眺めた際には、遠く御殿峠や野猿峠まで見える雄大な景色に、皆さん様に目を細めつつ展望を楽しんでおられたようでした。



森を抜けた先の高台から見えたのは「圏央道バイパスの工事現場」でした

（文と写真：宮田 太郎）

何とも贅沢なフットパスでした

今回歩いたのは、高尾山の麓に源を発し、八王子市の西部を東に流れて多摩川につながる湯殿川（ゆどのがわ）という小河川の流域です。高い段丘崖に画された谷間のようなところですが、頂いたマップによると古くから多くの街道が交錯する交通の要地であったようです。現在もJRや京王線に近くて都市化が著しいですが、周囲の山々や丘陵地はほとんどが鎌倉武士団や戦国北条氏などにより城塞化された歴史があります。

前日は空模様を心配しましたが、当日は雨上がりの爽やかな空気の下での景観の中を歩くことができました。宮田先生の該博な知識に基づく解説を聞いていると、ちょっとした地形の変化や細い道も歴史的な意味を持ち、想像が一気に鎌倉時代や戦国時代の過去に飛びます。何とも贅沢なフットパスでした。

今回のテーマである横山党は平安末期から鎌倉時代前期にかけて八王子市・町田市を中心に大きな勢力を誇った武士団で、この付近はその本拠があった場所です。大河ドラマの「鎌倉殿の13人」には含まれませんが、和田義盛の乱に加担して北条義時に滅ぼされたため歴史から姿を消しました。では横山党がこの地に残したものはあるのでしょうか？そもそも「湯殿川」という奇妙な名称は何に由来するのでしょうか？また、流域にある「御霊（ごれい）神社」の祭神・鎌倉権五郎景正は東北が舞台であった前九年の役（平安末期）のころの武士ですが、なぜここに伝承が残っているのでしょうか？

こういった様々な謎に対して宮田先生は大胆な説明を試みます。鍵となるのは、出羽三山湯殿山（ゆどのさん）の大日如来信仰との関係です。前九年の役に従軍した横山党や鎌倉氏一族が信仰を持ち帰り、この地に根付かせたのではないかと。

最後に訪れた「龍見寺大日堂」の大日如来像（東京都重要文化財）は、直接拝観することはできませんでしたが、端正な顔は写真からでも何かを語りかけてくるようでした。帰りのバス停の近くにも大日如来と思われる智拳印（ちけんいん）を結んだ古い石仏があり、印象的でした。

（文と写真：森 正隆）



湯殿川親水公園



龍見寺大日堂

他のまちのフットパスをみてみよう
異国情緒の横浜山手と元町を歩く
〔講師：田邊 博仁〕

山手丘陵の尾根道と坂道を廻り、
歴史を活かしたまちづくりを知る

6月4日(日) 天気：快晴 参加者：9名

女子中高生の利用が多く、“乙女の駅”の愛称のある「石川町駅」が今回のフットパスのスタート。目の前の中村川（堀川）が山下居留地と日本人居住地（元町）の境界で、1867（慶應3）年に背後の丘陵地に山手居留地が誕生。洋館、教会、ミッションスクールなどが相次いで立地しました。



石川町駅前の中村川

「大丸谷坂」を上ると、横浜の市街地を見下ろす丘の上の「山手イタリア山庭園」に出ます。かつて、「イタリア領事館(1880~1886)」がおかれていました。フランス瓦の屋根の「ブラフ18番館」と、とんがり屋根の「外交官の家」が横浜市に寄贈され、移築復元されました。水や花壇を幾何学的にデザインした庭園が見事です。



山手イタリア山庭園

「山手本通り」から「桜道」を経て「山手公園」に出ます。生麦事件（1862（文久2）年）がきっかけで、外国公司団から安心してピクニックや馬の遠乗りが楽しめる場所が欲しいと要望があるも、江戸幕府では具現化せず、1869年（明治2年）に

日本政府から貸与された土地が居留民により整備され、1870（明治3）年に「山下公園」が開園しました。「横浜山手・テニス発祥記念館」では4つの日本初の話をお聞きしました。①「日本初の西洋式公園」（1870（明治3）年）②「日本庭球発祥の地」（1876（明治9）年）③ヒマラヤスギが日本で初めて植えられた（1879（明治12）年）。④初代の「君が代」（1870（明治3）年）が日本で初めて演奏された。しかし、洋風の曲調で違和感があり1880（明治13）年に現在の曲へ改定。当時のファッション姿から、テニスは社交の場そのものだったことも知りました。



横浜山手・テニス発祥記念館にて説明していただく

「山手公園」から「フェリス女学院大学」横の「ブラフ積擁壁」と「市の名木古木のタブノキ」の風情ある道を上がり、再び山手本通りへ出ます。



フェリス女学院横の風情ある道

「カトリック山手教会」の歴史をお話し、フェリス女学院高校・中学横の汐汲坂を下り元町へ出て、お待ちかねのランチタイムです。



元町にてランチ (yokayo)

午後は、「元町公園」から。フランス人ジュラルールが、1868年頃から船舶向け給水事業や西洋煉瓦の工場を開設、関東大震災(1923年)で損壊。市は土地の永代借地権を買い取り、1930(昭和5)年に「元町公園」とした。低地には湧水を利用した「ジュラルールの水屋敷地下貯水槽」(国登録文化財)が現存。ウォーターガーデンを登り、「山手80番館遺跡」を見学、山手本通りの「エリスマン邸」、「ベーリックホール」の洋館で一休み。



元町公園のウォーターガーデン



元町公園のエリスマン邸

山手本通り沿いには「山手234番館」。横道へ入り、「ブリキのおもちゃ博物館」「クリスマスイズ」のお店を楽しみ、華麗な洋館の姿をよく残している「山手資料館」を見学。居留地だったころから関東大震災までの横浜や山手に関する資料が展示されています。

さらに、「港の見える丘公園」「フランス山」「アメリカ山庭園」を歩き、みなとみらい線「元町・中華街駅」にて解散いたしました。



山手資料館

(文と写真：田邊 博仁)

「異国情緒の横浜山手と元町を歩く」に参加して

今回の舞台となった元町は、1980年頃、ハマトラファッションの中心地で何度か足を運んだ場所です。その影響か？ファッション関係の仕事に就き、直営店を出店した思い出の深い町です。そのような訳で今回のフットパスに大変興味を持って参加しました。

参加してみて懐かしさに昔を思い起こすのではなく、新しい発見ばかりで大変感激し、楽しい一日となりました。

遠く「横浜ベイブリッジ」や「みなとみらい21」を望む丘の上からの眺望。日本初の西洋式公園である山手の緑豊かな公園。横浜屈指の高級かつ閑静な大きな住宅。フェリス女学院など歴史あるミッションスクールやカトリック山手教会の建物。外交官の家やエリスマン邸など昭和初期の歴史的な数々の洋館。などなど見所が満載でした。

もちろん歴史、地理、植物等の豊富な知識に裏付けされたお話を聞きながらです。

また参加された方々と歩きながら楽しいお話もさせていただきました。

フットパスの楽しさを満喫しました。NPO法人みどりのゆびの活動に参加し、いろいろなことを経験して見たいと思いました。

(文：伊藤 右学)



イタリヤ山からの眺望 (写真：田邊)



エリスマン邸 (写真：田邊)

フットパス専門家講座
古代の史跡を訪ね、
国分寺崖線の水と緑を楽しむ

[講師：高見澤 邦郎]

梅雨の合間の青空に、
僧尼寺&国府の跡をむすんだ一日

6月25日(日) 天気：晴 参加者：19名

集合地の西国分寺駅南口一帯は戦時中に国策で、東芝など工場勤務者用の木造長屋建て<営団住宅>が建てられ、戦後も住まわれていました。老朽化の中で30年ほど前に、交通広場や集合住宅群として再開発の実施へ。また府中街道を隔て、その東側には広大な敷地の<鉄道学園>がありました。国鉄の民営化に伴って東京都等に売却され、住宅団地や都立多摩図書館、国分寺市役所(建設中)などに変貌。私(高見澤)もその頃、市のマスタープラン作成を手伝っていたので思い出のある場所です。といったことを駅前説明後、鉄道学園跡地の大半を占める「都立武蔵国分寺公園」へ。公園の整備中に発掘されたのが8世紀頃につくられた<東山道武蔵路跡>。東山道は近江から陸奥まで800キロほどにわたる官道で、関東では今の群馬・栃木のあたりを東西に通っていました。その足利あたりから武蔵国の国府を目指して80キロほど、南に向かって一直線に12メートルの幅で設けられたのが「武蔵路」。我々も、保存された路の跡を歩いてみました。



鉄道学園時代の桜が武蔵路の中央に
それにしても幅12メートルは広い



発掘時の展示施設の前で一枚

広大な公園の南側は国分寺崖線に続き、その小径を下ると湧き水の溢れる「真姿の池」や「お鷹の路」に。日曜日なので家族連れで賑わっていました。



自然の中の小径



豊かな湧水

代々国分寺村の名主だった本多家の敷地と建物が昭和の時代に市に寄付されています。敷地内に整備された<武蔵国分寺跡資料館>を見学。古代のこの一帯の模型や出土した瓦など多くの展示がありました。そのすぐ西にある現在の「国分寺」は江戸時代の建立とされていて、立派な楼門・仁王門・薬師堂などがあります。



旧本多家長屋門の前で記念撮影

次いで「史跡武蔵国分寺跡・国分寺尼寺跡」へ。この両寺は天平の頃(8世紀なかば)、聖武天皇の詔で建立された全国60ヶ所とされるものの一つです。その後鎌倉時代後期に、新田義貞による分倍河原の戦いに巻き込まれ焼失、以後再建はならなかったとされています。当時の礎石などは以前からよく知られていましたが、近年、調査研究や公園的な整備が進み、見学ができるようになりました。



のびやかな武蔵国分寺・尼寺跡。両寺の間は府中に至る12メートル幅の<武蔵路>で隔てられていた

さて尼寺跡から府中街道へ戻り、バスに乗りして10分少々で府中駅に到着。京王線と南北に交差するのが<馬場大門の櫓並木>です。徳川家康が馬駆けの二条の道（馬場）とケヤキの並木を大國霊神社に寄進したのが始まりとされています。大正13年に国の天然記念物に指定されましたが、往事には60本以上あった幹周り3メートル以上の古木も、近年のビル化や車の増加で枯れるものも増え、その維持保全に市とボランティア団体が奮闘しているようです。さてここで1時間後に再集合ということにし、ランチタイム。



強い日差しをケヤキの並木が遮ってくれて一休みする人たちも・・・

午後は最後の見学。くらやみ祭りで有名な大國霊神社に参拝。そして、発掘調査で分かってきた武蔵国の国衙（こくが／東京都庁のようなもの）と国司館（こくしのやかた／10年程前に廃止された旧東京都知事公館のようなもの）の様子を展示する施設を見て日程を終了。



武蔵国の国衙と国司館の様子を勉強しました

南武線・武蔵野線の府中本町駅で2時半に解散しました。

暑い中の約8キロメートル、初めての方も含め多くの皆さんに参加していただきありがとうございました。

（文：高見澤 邦郎 写真：田邊 博仁）

1300年前の遺跡と今日の出来事

「東山道武蔵路跡」を經由し「国分寺・国分尼寺跡」を見学。その後府中に移動し、「史跡大國魂神社・武蔵国府跡」など約1300年前の史跡に触れる半日でした。いずれも規模が大きく朝廷の意気込みと、当時いかに疫病や天候不順による農作物の不作などに悩まされていたかが感じられました。よくこれらが今も残っているなど感心しました。又公園もよく整備されていてさすが都立。このまま残ってほしいものです。

ランチタイムにびっくりなことに遭遇。一緒に参加した伊藤さんと昼食にと行ったカレー屋さんの券売機でのこと。一人の大柄な外国人の先客。よく見るとなんとラグビー日本代表キャプテンだった（今もかもしれませんが）リーチマイケルその人だったのです。



ここで関西人のおばちゃんなら“マイケル元気”などと話しかけるのかもしれませんが、関東に住んでいるものとしては遠慮して声もかけられず、もちろん写真を一緒に撮るなんて勇気も出ずに無言で待っていると、先にどうぞとばかりに譲ってくれました。その後携帯で連絡を取っていたので家族から持ち帰りを頼まれていたようです。ちなみにマイケルは東芝府中の所属（今はどうか？）なので、この辺りで遭っても何の不思議もありません。私も伊藤さんも身長は180cm近く（今は年齢と共に低くなっていますが）。けっして低い方ではないのですが、さすがにマイケルがでかい。胸板の厚みはすごい一言。勇気を出していればここに一緒に撮った写真を掲載できるのに。皆さん、こういう時には勇気を出しましょう。

ところで先を譲ってもらった券売機でカレー券を買ったら、それがなんと弁当券になっていました。私はそれを押した記憶は全くないので、多分マイケルが押していたのが残っていたのではないかと思います。

もちろん店員に話して店内で食べました。弁当なのでウェットティッシュ付。この件で伊藤さんとの会話も弾み、実に楽しいランチとなりました。

（文；鈴木 弘）

農と緑の管理

小野路里山にお越しく下さい。

当会の緑地と竹林は、町田市北部の小野路宿と調布市布田五宿を結ぶ、江戸期からの布田道に接しています。道幅が狭いため車が殆ど通らず、騒音と無縁な豊かな自然に恵まれています。

月1回の管理作業は、この里山を味わいながら行っています。皆さま、昔懐かしい里山を訪ねて、ぜひ散策にお越しく下さい。またご興味あれば、当会作業日のお試し参加も歓迎します。

景観とタケノコ目的で竹林を整備

1月15日(日) 天気：曇 参加者：6名

昨年9月竹林の管理活用について専門家講義を受け、そのノウハウを活用し竹林管理を強化して来たが、春に向けて一層の整備を進めた。

枯れた竹や傾いた竹を伐採し、適当な間隔を確保することで、健全な孟宗竹を育成しタケノコも出やすい環境作りに励んだ。

2月26日(日) 天気：曇 参加者：8名

今回は参加者が多いうえ、チェーンソーや刈払機も活用したので、不要竹伐採や灌木下草刈りの作業が大いに捗った。

その結果、竹林は今迄とは見違えるほど美しくスッキリした。また切通し付近の整備により、人気ある景観も改善された。

3月19日(日) 天気：晴 参加者：7名

緑地裏の山地を調査した。10年来ご無沙汰の裏山は倒木多く篠竹も繁って踏み跡すら見えず、ヤブ漕ぎして何とか頂部の小祠に辿り着いた。

次は竹林に向かい、不要小竹の除去などを進めたので、竹林は広々と見通しが良くなり、気持ち良く整備された状態に仕上がった。

4月16日(日) 天気：曇 参加者：12名

今日はタケノコ試し掘り。竹林は整備したが、肝心のタケノコが見つからず、探し回って何とか小さいのを含め15本程度掘り出した。

タケノコは毎年豊凶交互の傾向が強く、昨年豊作の反動か、今年は凶作の様様。また小野路地区は何処でも、貧作との情報も得た。

4月23日(日) 天気：曇時々晴 参加者：23名

年に一度のタケノコ祭。多くの会員やゲストの参加を得て、必要数のタケノコを確保し、タケノコ入り豚汁を囲んで大いに盛り上がった。

このアウトドア・ランチを楽しみにしている方は多いし、布田道通行者も増えているので、今後とも整備は進めていきたい。

5月7日(日) 天気：雨 管理作業中止
通常のタケノコが終わった後は、穂先タケノコが採れると聞いたが、凶作年ではタケノコを掘り尽くしており無理と判明した。

また緑地草刈りは、4月からの道沿い個人刈りにより、当面は急いで草刈りをする必要がないため、5月は完全中止とした。

日常的な環境保全活動

6月18日(日) 天気：晴 参加者：10名

11日が雨天順延され、布田道へ落ちそうな木枝や枯竹の撤去、オオブタクサ抜去等の緊急課題解決を優先して作業した。

当面のリスクは排除出来ても、継続して発生する問題につき、今後とも状況を見守りながら適切に対応していく必要がある。

恵泉女学園大学の田植えに参加

6月10日(土) 天気：曇 参加者：40名(当会3名+家族)

新入生を中心とした学部職員あがりの田植えに、当会からは会員3名が参加して、楽しみながら体験実践することが出来た。



田植え (写真：恵泉女学園大学)

(文：合田 英興)

初めての田植え

恵泉田圃で、田植えを初めて体験した。緑地奥にある田圃は苗床、うるち米、餅米用の3枚に分けられて美しく並んでいる。先ず苗床田圃で苗取りをした。相当に長い長靴で田圃に入り、苗を取ったら軽く泥をすすぎ、ワラで束ねる作業。やっているうちに体重で足が泥に嵌まっていき不安になる。右足踵から動かそうとした途端、長靴が抜けそうになってバランスが崩れ、ドロコ第1号となった。

その後は裸足になり田圃に入った。ヌルツとした感触が足裏で感じられ、田水の冷やっこさが意外に気持ち良かった。長靴より裸足のほうが泥に潜っていかないのも意外であった。

当会Nさんは今年もお孫さんと参加され、元関係農家のMさんは学生と会話しながら、楽しそうに裸足で作業されていた。アツという間の楽しい一時であった。(文：新納 清子)

森林のフィトンチッドは 人の心身もリフレッシュ

3月。今日は気持ちの良い晴天。民家のお庭には色とりどりにツバキ、スイセンやスマイレ。布田道に面した作業小屋のある広場では、先月のロウバイに変わり、大木のコブシやレンギョウがお出迎え。この場所はいつ来ても心地良い。

今日は裏山調査で急傾斜を登る合田さんと別れ、私たち6名は脇道から初めて裏山へ分け入る。気分はワクワク“みどりのゆび探検隊”。

木々の根が階段状に張り出ているため、滑らないように気をつけて登ると、小さな古い小屋のある草地に出た。大人でも思わず駆け出したくなる気持ちの良い場所。仲間とヨガやティーパーティなどしたら楽しいことでしょう！と思いながら、合田さんの指示に従い奥の細い道を進むと、大きなカシ?の木のある美しい竹林が続く。さらに道を上りきると、祠のある眺望の良い場所に辿り着いた。

合田さんと合流後、いつもの竹林まで下って前回の伐採竹の整理と一面の小竹の刈り取り作業。陽当たりの良い広場がつくられた。

作業帰りにはヤマザクラや満開のヨウコウザクラも見事。この里山を歩く度に自然に魅せられ、楽しみが増えて嬉しい。

どうぞ皆さま、森林浴においでください。

(文：松本 美津子)

今年もタケノコ祭がやって来た！

昨年の9月に、竹林専門家の方のお話を聞いてから、竹を沢山切りました。神谷さんの呼び掛けで参加者が増え仕事もはかどりました。竹林には日がよく射し込み、風もよく通るようになり、サンショウはあちこちから生え、いつの間にかタラの芽も出ています。キンランやタマノカンアオイも静かに咲いています。

タケノコ祭で嬉しいのは、普段はフットパスでしか会えない人と竹林で会える事です。タケノコ祭はタケノコを掘るのが目的ですが、この日は皆のお楽しみの日でもあります。

まずはいつもの具がたっぷり入ったタケノコ汁、焼きタケノコ、タケノコの刺身(特製木の芽ソース添え)、最近はこれに焼きリンゴが加わりました。今年は干し葡萄入りで、切り分けるとバターとシナモンがほのかに香り、ここでしか味わえない格別の一品で大人気です。

焚き火では、焼きリンゴの他に除湿消臭に役立つお持ち帰り用の炭を焼きます。松ぼっくりは綺麗に焼け、今度は形がおもしろいレンコンの輪切りでも作る予定。試してみたい物があればお持ちください。一緒に炭を焼きましょう。

今年はタケノコがあまり採れませんでした。来年は豊作でありますように。

(文：鈴木 由美子)



美しくスッキリした竹林(0206 写真：神谷)



タケノコ祭のタケノコ (写真：横山) とキンラン (写真：神谷)



タケノコ祭の楽しみ：
タケノコ汁、焼きタケノコ、
タケノコの刺身、焼きリンゴ
などを楽しむ参加者のみなさま (写真：横山)



タケノコ祭に参加のみなさま (写真：神谷)



NPO法人「みどりのゆび」2023年9月～2024年3月 フットパス・スケジュール



持ち物：弁当 水筒 雨具 参加費：1000円（イベントによって変更あり） 申込：みどりのゆびHPまたは下記メール
★変更などがある場合も。必ず事務局に確かめてからお出かけください。 ☎ 042-734-5678 📠 080-5405-3904（神谷）

うれしいことに、初参加の方が増えてきました。今期も、と一緒にフットパスを楽しみましょう。

●必ずお申し込みください。天候によって中止の場合もありますし、昼食の予約など保証できなくなります。

●申し込んでも事務局から何も連絡がない場合には、再度ご連絡ください。

メール：info-m@midorinoyubi-footpath.jp 電話：042-734-5678 FAX：042-734-8954 携帯：080-5405-3904（神谷）

9月10日(日)

【集合】

西武池袋線
「大泉学園」駅
改札口
10:00AM

【昼食】

弁当持参

申込締切
9月3日まで

『フットパス専門家講座：牧野富太郎の記念庭園から石神井公園へ』

【講師：山田 隆彦（日本植物友の会副会長） 牧野ゆかりの植物と石神井の自然観察】

【内容】人気の連続テレビ小説「らんまん」のモデルで知られる植物学者、牧野富太郎。彼の1926年から亡くなるまでの30余年を過ごした自宅と庭の跡地を公開している「牧野記念庭園」を訪ね、ゆかりの植物を観察。先立った妻の名前を記念してつけたスエコザサなどを観察します。

石神井公園では、水生植物のゴキヅルやマコモ、湿ったところに生えるシロネ、ススキに寄生しているナンバンギセル、派手な花色のノカンゾウ、シロバナサクラタデ、ヒオウギなどの花に出合える予定です。

【コース】「大泉学園」駅→牧野記念庭園→石神井公園（三宝寺池→石神井池）→西武池袋線「石神井公園」駅



牧野記念庭園



庭園内のスエコザサ



石神井公園



公園内のゴキヅル

10月1日(日)

【集合】

東京メトロ
銀座線
「浅草」駅
5番出口
10:00AM

【昼食】

現地レストラン

申込締切
9月24日まで

☆集合場所など変更があるかも知れませんが、前々日か前日にお送りするメールを必ずご覧ください。

『他のまちのフットパスをみてみよう：隅田川・橋巡り 隅田川沿いにどんな道があるのでしょうか』

【講師：桐澤 宏 13の橋を見ながら浅草から河口まで歩きます】

【内容】東京の七つの区に接してを流れる隅田川。その最上流、荒川と分岐する岩淵水門から河口までは23.5kmあります。

南千住から河口までの約12kmの間は「隅田川テラス」も整備され、心地よく歩ける区間です。その間に架かっている橋は18橋。江戸時代に、中の5橋が既に架けられていたというのですから驚いてしまいます。

今回は浅草駅から出発して「すみだリバーウォーク」を渡り、13の橋を見ながら河口の築地大橋まで、約8kmの「隅田川リバーサイドウォーク」です。

【コース】東京メトロ「浅草」駅→「すみだリバーウォーク」で左岸へ→「牛嶋公園」→吾妻橋・駒形橋・厩橋→蔵前橋近くで「横綱町公園」の慰霊碑→昼食（両国橋近辺）→新大橋→清洲橋（重要文化財）で右岸に→隅田川大橋→豊海橋（支流の橋。中央区文化財）→永代橋（重文）→中央大橋→南高橋（支流の橋。中央区文化財）→少し戻って→中央大橋で月島へ→「住吉神社」→佃大橋→勝鬨橋（重文）→築地大橋（隅田川はここ迄！）

15：30頃解散

◎大江戸線「勝どき」駅まで700m

◎バス停「新島橋」まで200m 「東京」駅南口まで15分



写真：東京都提供

10月15日(日)

【集合】

小田急線
「秦野」駅
改札口
10:00AM

【昼食】

弁当持参

申込締切
10月8日まで

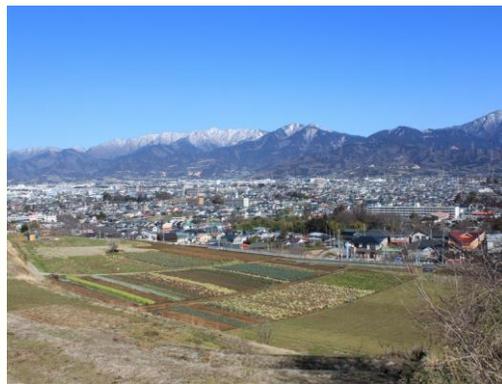
『他のまちのフットパスをみてみよう：丹沢の雄大な景色を見ながら渋沢丘陵を歩く』
【講師：田邊 博仁 秦野の湧水群、自然の神秘的な「震生湖」、丹沢表尾根の雄大な眺望】

【内容】 渋沢丘陵は秦野市の南側に東西に広がる丘陵地帯で、小田急線の秦野駅と渋沢駅とを結ぶ線に沿って連なっています。秦野盆地湧水群は「全国名水100選」に選定され、秦野駅近くの伝説の残る「弘法の清水」は、特に有名です。また、最大の湧水量を誇る「今泉湧水池」など、名水の里「はだの」の湧水スポットを巡ります。さらに、沿道の由緒深き神社仏閣として、安藤忠雄氏の本堂改築設計の「太岳院」や関東三大稲荷の一つの「白笹稲荷神社」も巡ります。

秦野駅から白笹稲荷神社までは、平坦な道です。白笹稲荷神社から震生湖までは登り坂となりますが、登るにつれて、田園風景が広がり、秦野市街、大山や三ノ塔・塔ノ岳など表丹沢の山々も一望できます。秦野市内でも屈指の眺望スポットで、晴れた日には富士山を眺めることもできます。

百年前の関東大震災（1923年9月1日）で誕生した湖、「震生湖」を探索します。「天災は忘れた頃来る」の諺・警句で有名な寺田虎彦の句碑が建てられています。再び渋沢丘陵を歩き、市街地を経て、渋沢駅にて解散します。

【コース】 「秦野」駅→「弘法の清水」→「太岳院」・「今泉名水公園」→「まいまいの泉」→「白笹稲荷神社」→「震生湖」→「渋沢丘陵」→「国栄稲荷神社」→「渋沢」駅（15:30解散）



丹沢表尾根の眺望



関東大震災で誕生した震生湖

10月28日(土)
~29日(日)

申込締切
事務局 神谷
まで連絡願いま
す。(080-
5405-3904)

【費用】

交通費+宿泊費
(新幹線込み
ホテルの場合
2万5千円前後)

28日:ウォーク
参加費500円、
フォーラム無料、
フォーラム後交
流会6000円

29日:ウォーク
500~2500円
(昼食や温泉の有
無によって)

※いずれも参加
される場合の経
費です。

『他のまちのフットパスをみてみよう：福島県西郷村』
【講師：みどりのゆび+日本フットパス協会 全国フットパスの集い2023年】

【内容】 毎年恒例の日本フットパス協会の年次大会です。今年は福島県で、新幹線の新白河駅にある西郷村です。ヨーロッパ的な美しい景観の開拓村で、少し奥に入ると「大内宿」など会津の観光地も楽しめます。北縦貫道白河インターからでもすぐです、イベントの概要は以下の通りです。両日とも西郷村の村長以下職員や地元の方たちのご案内で、ウォークやおもてなしを楽しみます。参加者には後日詳細を。帰りもしくは滞在中に、近くの大内宿などに当会グループだけで出かけることも考えています。当会会員の方はみどりのゆび事務局でいろいろご案内いたしますので、締切までにお申込みください。締切過ぎても参加希望の方は事務局までご相談ください。(新幹線とホテル・バックは早いほうがいいのが取れますので(8月開始)、希望者はなるべく早くご連絡ください。)

- 28日
午前中 フットパスウォーク3コース（事前申込／参加費500円昼食無し）
日本フットパス協会理事会・総会
フォーラム（13:30~16:50 申込不要／無料）
夕方 交流会（17:30~19:30 事前申込／6000円予定）
- 29日
フットパスウォーク5コース（事前申込／参加費500円~2500円）
(フットパス終了後の無料送迎バスは新白河駅前へ14:30までに到着)
(集合) 「新白河」駅前 東京第一ホテル 日本フットパス協会大会会場
28日午前中ウォーク参加者（8：15）フォーラム参加者



西郷村の景色



西郷村のパンフレット

11月10日(金)

【集合】
小田急線
「玉川学園前」
駅 改札口
10:00AM

【昼食】
和光大学食堂
(予定)

申込締切
11月3日まで

『フットパス専門家講座：玉川学園から鶴川 定番のコースを深堀りします』
【講師：浅黄 美彦・高見澤 邦郎ほか 昭和初期に創立の「玉川学園」とスプロール住宅地にできた「和光大学」、ルーツは同じ「成城学園」なれど、まったく違う風景に。尾根道で繋がる二つの対比的なまちと学園を、新たな知見を踏まえ深堀りして歩きます。】

【内容】戦前にできた玉川学園らしい自然地形を生かした敷地の広い住宅地を歩きます。丘の上の鉢巻道路沿いの著名建築家による住宅、遠藤周作邸跡などを見て、「玉川教育博物館」を訪ね、学園の教育とまちづくりの思想などを学びます。学内の教会や校舎を眺めつつ、尾根道を歩き岡上（川崎市の飛地）へ。尾根道沿いの素敵な住宅と急傾斜地の住宅を見つづ坂を下り、和光大学食堂で昼食。学内の円形校舎（内藤廣設計）などを見て、岡上の定番コースへ。旧家が建てた集合住宅tetto、岡上の小道、そして広大な田園を眺めます。時間に余裕があれば、蔵邸でワインを飲み解散。

【コース】「玉川学園前」駅出発→玉川学園二丁目／鉢巻道路沿いの住宅（文学、建築散歩）→玉川教育博物館→尾根道を歩き岡上へ→尾根道沿いの小住宅や庭園→和光大学食堂で昼食（学生気分を味わいます／今時の学食はなかなか美味しい）→旧家の集合住宅tetto→岡上の小道→田園風景→（蔵邸）解散



玉川学園の牛小屋 秋には取り壊し？



和光大学の校舎

11月30日(木)

【集合】
京王線「長沼」
駅 改札口前
10:00AM

【昼食】
東京薬科大学
レストラン

申込締切
11月23日まで

『他のまちのフットパスをみてみよう：かつての「野猿峠ハイキングコース」を歩く』
【講師：田邊 博仁 紅葉の「長沼公園」、「東京薬科大学」、「永林寺」、「八王子堀之内里山保全地域」を巡る】

【内容】かつての「野猿峠ハイキングコース」は、今どうなっているのかな？と気になっていたなら「NHK吉田類のにつぼん百低山」の初回(20220404)に「都立長沼公園の野猿の尾根道」が紹介されました。こんなきっかけで、今回、みなさまと一緒に、ゆっくりと歩いてみましょうと企画しました。紅葉の「長沼公園」の野猿の尾根道の「鎌田鳥山」、「峠の小さな美術館」を歩き、八王子や日野市街さらに奥多摩や遠く秩父の山並の眺望を楽しみましょう。

隣接して「東京薬科大学」があります。ここで昼食として学食レストランを利用させていただき、東京都で最も広い薬用植物園も見学します。

昼食後は、地元の古刹「永林寺」をお参りします。この辺りは、室町時代に大石氏の居城(由木城)であった場所です。大石氏が滝山城に移った跡に永林寺が創建されました。とても由緒ある立派なお寺です。永林寺から「八王子堀之内里山保全地域」へ向かう道に、懐かしい里山風景が広がります。ゆっくり歩いて、「京王堀ノ内」駅にて解散します。(午後3時半ごろ)

【コース】①京王線「長沼」駅改札口(10:00)→②長沼公園・野猿の尾根道→③東京薬科大学(薬用植物園と学食レストラン)→④永林寺→⑤堀之内里山保全地域→⑥京王線「京王堀ノ内」駅(15:30 解散)



長沼公園の晩秋の紅葉は美しい



家康に赤門建立が許可された永林寺総門

12月9日(土)

【集合】
東京メトロ
日比谷線
「三ノ輪」駅
出口3（日光街
道と明治通りの
交差点）
10：00AM

【昼食】
ジョイフル
三ノ輪商店街で
各自
(蕎麦の砂場な
ど) 現地レスト
ラン

**申込締切
12月2日 まで**

『フットパス専門家講座：三ノ輪から竜泉、吉原そして下谷根岸へ 下町を巡ります』
【講師：浅黄 美彦 午前は一葉・荷風の文学散歩。午後は私のまち歩きの原点、下谷根岸
をご案内します。】

【内容】一葉・荷風ゆかりの地 三ノ輪、竜泉と私のまち歩きの原点（1977年東京のまち研究会の調査地
区「下谷根岸」）を歩きます。
午前中は樋口一葉記念館、投げ込み寺として知られる「浄閑寺」、吉原といった一葉、荷風ゆかりの地
を歩きます。昼食は都電荒川線の終着駅三ノ輪橋近くのジョイフル三ノ輪商店街。
午後は金杉通りを南下して、点在する歴史的な建物（矢島写真館、出桁造りの町家、長屋や「小野照崎
神社」）など下谷根岸の歴史のまちを歩きます。浅草、上野とはちょっと違った下町を巡るフットパ
コースです。

【コース】東京メトロ日比谷線「三ノ輪橋」駅出口3→樋口一葉記念館→吉原→三ノ輪 写真家荒木経惟
氏の実家 下駄屋跡→三ノ輪 浄閑寺→ジョイフル三ノ輪商店街（昼食）梅沢写真館→矢島写真館→小
野照崎神社→手児奈せんべい屋あたり→旧陸奥宗光邸洋館→居酒屋鍵屋→「鶯谷」駅北口（15：30頃解
散予定）




矢島写真館
手児奈せんべい

**2024年
3月2日(土)**

【集合】
京王線
「南平」駅
10:00AM

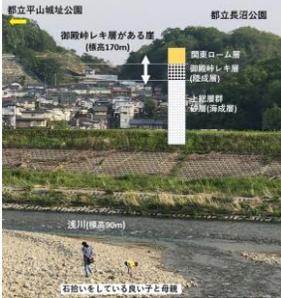
【昼食】
東京薬科大学
学食

**申込締切
2月24日**

『他のまちのフットパスをみてみよう：多摩丘陵の成り立ちを探るコースを歩く』
【講師：小林 道正 多摩丘陵は相模川の河原だった！】

【内容】多摩丘陵は境川と多摩川に挟まれた小高い地形のことで、高尾山の麓から八王子市や町田市の
全域に広がる丘陵地です。この地域の河床や崖を観察することによって、多摩丘陵がいつ頃、どのよう
にしてできたのかが分かります。今回は京王南平駅近くの浅川の河床で約100万年前のホタテ貝や二枚
貝の化石を発掘する体験をして、この化石から何が分かるのか考えましょう。次に、「平山城址公園」
近くの崖にある「小石」を観察し、この石が相模川の河原の石だった証拠を見つけましょう。ここまで
が午前中の活動です。お昼は「東京薬科大学」の学食を利用し、その後、薬用植物園で牧野富太郎がこ
よなく愛した「オウレンの花」の仲間を鑑賞したいと思います。バスで「京王堀之内」駅へ移動し解散
します。歩行距離は約5km。高低差は約150mです。

【コース】京王線「南平」駅→浅川＜河床で化石の発掘体験＞→平山城址公園近くの崖＜小石観察＞→東
京薬科大学＜学食：昼食→薬用植物園：見学＞→バスで京王線「京王堀ノ内」駅（15:30頃解散）



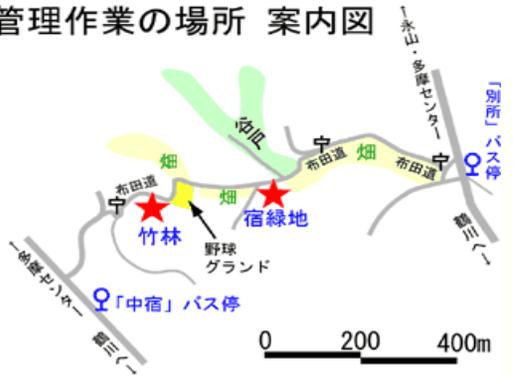


浅川の河原
ホタテ貝の化石
崖の小石

「みどりのゆび」2023年9～2024年3月 CSAスケジュール

★雨天では、必ず事務局に確かめてからお出かけください。

集合：現地10時 持ち物：弁当、水筒、軍手、長靴（必要なら）

2023~24年	 「緑と農の管理」	管理作業の場所 案内図
9/3 (日)	緑地草刈	
10/7 (土)	恵泉の稲刈	
10/22 (日)	緑地草刈	
11/5 (日)	緑地草刈 + 竹林管理	
12/3 (日)	竹林管理	
2024年	竹林管理	
1/14 (日)	竹林管理	
2/25 (日)	竹林管理	
3/17 (日)	竹林管理	

NPO法人みどりのゆび ホームページのご紹介

ウェブ検索にて「NPO法人みどりのゆび」と挿入すると、右記のホームページが開きます。

上部の各項目の▼をクリックすると、さらに、各種のご案内が開きます。

●「イベント」では各種イベントスケジュール、カレンダーおよびイベント申込みが開きます。

●「活動の記録」では会報、活動レポートが開きます。

●「みどりのゆび概要」では、会のご紹介、沿革、入会申し込みなどが開きます。

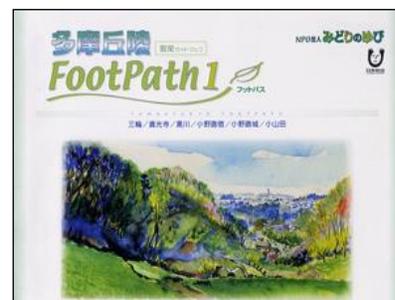
●「お知らせ」では、新着情報、掲示板が開きます。掲示板では、みなさまの投稿が可能になりましたので、ご活用ください。

フットパスガイドマップ4冊（改訂版発行有）

町田市地域には、フットパスにふさわしい昔ながらの里山風景、雑木林、田畑、古街道、歴史の面影などが随所に残されています。

魅力あるフットパスコースを町田市と協働で開発してフットパスガイドマップとし、「多摩丘陵FootPath1」¥500+税、「多摩丘陵FootPath2」¥500+税、「まちだフットパスガイドマップ」¥800+税、「まちだフットパスガイドマップ2」¥700+税 の4冊を刊行しています。

市内の書店でのご購入、または、事務局へお申し込みください。



～ 編集後記 ～

お～ 確かに素晴らしい写真！ これを見れば、隅田川橋巡りのフットパス「13の橋を見ながら・・・」は、誰だって歩きたくなるというもの。ただ、これは東京都公園協会発行のパンフレットで発見した空撮写真。そこで「都政記録写真」の中から探し当て、書類申請の結果、わが会報に使用許可が！企画した桐澤さん、諦めなくてよかったですね。（横山）

新しい仲間が増え、早速、会報への寄稿をお願い、快くお引き受けに感謝！ 個性豊かなガイドの話に耳を傾け、メモを取ったり、仲間との楽しいウォーキングの会話、何よりランチで一段とテンションが上がる、そんなフットパスの様子と集合写真をパチリと。ガイドの報告、新しい仲間の感想寄稿文、そして緑地管理の様子など、ご覧あれ！（田邊）

NPO法人「みどりのゆび」

- ・事務局 : Tel 042-734-5678 Fax 042-734-8954 Email info-m@midorinoyubi-footpath.jp
- ・ホームページ : <http://www.midorinoyubi-footpath.jp/>
- ・Facebook : <https://www.facebook.com/midorinoyubi.footpath>